

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

たくましく自立・しっかり自律し、他者理解と協同の心をもって社会に参加・貢献する力を伸ばせる学校

1. 地域との連携を緊密に図り、地域から愛される「明るく開かれた学校」「きれいな学校」「行きたい学校」をめざす。
2. 厳しくも、様々な背景を理解して寄り添う生徒指導を通して、基本的生活習慣と高い規範意識を醸成する。
3. 「確かな学力」を育むため、「基礎学力の充実」と「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善に取り組む。
4. 中学校や外部人材・機関との連携を深めて教育相談体制を充実させるとともに、キャリア教育を推進し、中途退学の防止に努める。
5. 全教職員が同じ想いのもとに、生徒の目標実現や課題解決のための様々な工夫と教育内容の充実を図り、生徒・教職員がともに充実感や達成感を味わうことのできる学校をめざす。

2 中期的目標

- 1 どの生徒も一人にしない学校をめざし、教職員が研修を深め、「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を推進する。
 - (1) 小グループでの学習を中心に、生徒どうしが分からないことを聴き合える関係づくりと、質の高い学びに繋がる教材づくりを通して、確かな学力を育成する。
 - ア 活性化プロジェクト会議を中心として、授業公開の活性化、公開授業と研究協議の企画・実施を推進し、教員の授業力向上と生徒同士が協同して学び合う授業改善に取り組む。
 - イ 少人数展開授業を通して、きめ細かい指導を充実させ、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る。
※生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」を（平成 28 年度 77%）、平成 31 年度には 85%をめざす。
- 2 全ての教育活動を通して規範意識と人権尊重の心を醸成し、安全・安心な学校づくりを推進する。
 - (1) 基本的生活習慣を確立し、遅刻や問題行動の防止に努める。
 - ア 遅刻指導を徹底し基本的生活習慣の確立を図るとともに、教職員が範を示して挨拶する態度を育む。
※生活習慣の改善と中退防止の観点から、遅刻者数の毎年 10%減をめざす。
 - イ 頭髪・身だしなみの指導の徹底に向けた取組みを強め、地域に信頼される学校を確立する。
 - ウ 生徒指導上の課題に対しては、すべての教職員が適切かつ毅然とした指導を行うよう、指導方法における教職員の共通認識を深め、チームワークを活かして対応する。
 - (2) 課題の背景をつかみ取り、生徒に寄り添ったきめ細かい支援を通して、不登校や中途退学を防止する。
 - ア 高校生活支援カードを活用するとともに、家庭連携、中高連携をさらに深めて、課題を教職員が共有し、修学支援委員会を中心に「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる。
 - イ 外部人材、外部機関との連携を深め、不登校や中途退学の防止に注力する。
※生徒向け学校教育自己診断の入学満足度（平成 28 年度 65%）を、平成 31 年度には 80%をめざす。
※中退率・生徒指導事案数を 3 年間毎年、前年度以下とする。
 - (3) 自尊感情を高め、人権を尊重する態度を育み、人間関係づくりを推進する。
 - ア HR や総合的な学習の時間、学年行事等で他者理解を深める指導を徹底する。
 - イ 学校いじめ防止基本方針に基づいた校内体制と教育相談の充実をめざし、生徒の小さな変化に素早く気づき対応ができるセーフティネットを、よりきめ細かなものとする。
- 3 生徒自らが進路目標を掲げ努力し、自己実現ができる支援・指導体制を充実させる。
 - (1) 学校生活を通し、自己発見を促すとともに、勤労観・職業観・自己肯定感を養う。
 - ア 進路指導部を中心に、入学時より 3 年間を見通した系統的なキャリア教育を実施する。
 - イ 授業、学校行事・HR 活動・生徒会活動・部活動等、すべての教育活動を「自立した社会人を育てる」という観点から組み立てる。
 - (2) 多様な進路希望に応じた学習ができる教育環境を充実させる。
 - ア 基礎・基本の学力定着を図る「朝学」、大学等進学に備える「ゆめ学」、受験・就職に繋がる資格取得に向けた講習や取り組みを実施する。
※卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以外の進路未決定率（平成 28 年度 8%）を、平成 31 年度には 5%以下をめざす。また、学校斡旋就職希望者の割合（平成 28 年度 70%）を、平成 31 年度 80%以上をめざす。
- 4 部活動・学校行事などの活性化を図り、活気あふれる元気な学校にする。
 - (1) 部活動や生徒会活動への参加を呼びかけ、活動を通して豊かな人間性を育成する。
 - ア 部活動や生徒会活動等を通じて、責任感、連帯感、達成感、自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。
 - イ 地域の関係諸機関との連携を密にし、広報活動にも積極的に取り組み、地域とともに歩む学校、入ってよかった学校をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断の学校行事満足度を（平成 28 年度 59%）毎年 5%引き上げ、平成 31 年度には 74%をめざす。
※1 年生の部活動加入率を（平成 28 年度 27%）、平成 31 年度には 45%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ・「協同的な学習」の取組みを通して生徒の学びを深めるべく、小グループで考える授業をめざして取り組んだ。「授業はわかりやすく、内容に満足できる。」に肯定的な回答は 54.6%（昨年度比-1.7 ポイント）であり、学年の進行とともにポイントは高くなっている。「教え方に工夫をしている先生が多い。」に肯定的な回答は、1 年生が 51.9%、2 年生が 69.0%（昨年度 1 年生比+5.6 ポイント）、3 年生が 72.3%（昨年度 2 年生比+7.7 ポイント）であり、全体では 65.8%（昨年度比+0.5 ポイント）となり、生徒の高校生活への落ち着きと定着に伴い、教員の授業準備のために確保できる時間が増え、効果が出ているものと思われる。「授業などでビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを活用している。」に肯定的な回答は 66.6%（昨年度比+6.0 ポイント）であり、同窓会の支援を受け年度途中に教室へのプロジェクトを設置した効果が現れた。ICT を活用した分かりやすい授業の更なる展開をめざす。</p> <p>【生徒指導等】 ・「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」に肯定的な回答は、1 年生が 50.9%、</p>	<p>第 1 回 (6/28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にも分かり易い目標を掲げ、さらに生徒を巻き込み主体的に目標を考え参加する形が作れないかと思う。 ・頭髪や身だしなみは「なぜ指導されるのか」ということを丁寧に説明することで効果がでるのではないかと思う。 ・生徒のモチベーションが上がり、生徒のためになる取組に注力できるよう業務の取捨選択をすることも大切ではないか。 <p>第 2 回 (10/24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップは、学校と地域の企業が連携し、カリキュラムに取り入れ全員が取り組めないものか。企業側も 2 週間くらいかけて厳しさを伝えたい。 ・ホームページを見て、イモ掘りを通した地域の幼稚園などとの交流はよい取り組みと感じた。今後も続けてほしい。 ・地元地域の行事に積極的に参加してほしい。楽しいことができるのではないか。生徒もそういう舞台があれば張り合いが出てくると思う。 ・生活習慣の改善など様々な指導の場面で、卒業生や地域社会の人に協力してもらっ

2年生が56.8%（昨年度1年生比-4.4ポイント）、3年生が56.8%（昨年度2年生比+0.6ポイント）、全体では54.7%（昨年度比-6.8ポイント）であった。1年次は高校生活に馴染むよう、2年次は更なる高みへ導こうと取り組んだ結果であるが、生徒が肯定的にとらえられるよう、さらにきめ細かい対話に努めなければならない。また、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる。」に肯定的な回答が、1年生が46.2%、2年生が54.7%（昨年度1年生比+2.1ポイント）、3年生で48.2%（昨年度2年生比+7.1ポイント）、全体では50.3%（昨年度比+0.2ポイント）と、半数の生徒が気軽に相談できないであることをしっかり受け止め、教育相談の更なる充実と生徒に寄り添った指導を推し進めなければならない。

【進路指導等】

・講習を通した進学への取組みや職業観・勤労観を育む系統立てたキャリア教育に取り組んでいるが、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」に肯定的な回答は、1年生が58.1%（昨年度比-10.9ポイント）、2年生が73.9%（同+1.1ポイント）、3年生が65.2%（同-7.2ポイント）、全体では66.5%（同-4.2ポイント）と昨年度より後退してしまった。また、「学校は進路についての情報を知らせてくれる。」に肯定的な回答は、1年生が52.4%（昨年度比-18.9ポイント）、2年生が71.8%（同-2.3ポイント）、3年生が72.3%（同-6.8ポイント）、全体では67.2%（同-7.0ポイント）であり、進路意識に改善の見られた昨年度から大きく下げてしまった。すべての教職員によるあらゆる機会を通したキャリア形成につながる語り掛けと、計画的取組の再構築が必要である。

たり、生徒たちに対策を考えさせるなど、色々な視点で考えていただければと思う。

・何が課題かをもう一度見直しそれに対して有効な取組みとなっているかを考えてほしい。教員だけですべてを解決するのではなく、社会や家族の協力も得たい。何よりも、生徒たちに主体的に学校の事も考えさせ、生徒と一緒に検討して欲しい。

第3回（2/19）

・意識を持たずに入学した生徒にも様々な話し掛けを粘り強く続けて行く中で、意識がその子のもとなり教えてもらったことが理解され、必ず結果は出てくると思う。

・子どもたちの頑張ったところを褒めるなど、子どもたちの努力を「見える化」してあげることで、子どもたちも意欲が高まっていくのではないか。

・目標に届かなかった点については、さらに上げるために必要な材料は何かを見つけるよう検討して欲しい。

・数字だけで評価するのではなく、良いものは良いと評価して、そこでもっと動き出して、どんどん進めて欲しい。

・生徒が納得するまでとことん話を聞き、褒めて伸ばしてあげてほしい。

・どこを課題にして、どこを頑張ったのかにフォーカスを当てて、目標が達成されたのか達成されなかったのかを考えるのが良い。

・生徒自治会の生徒が文化祭での全校企画を提案し、その生徒の思いを先生が受け入れて実現させた取組みは素晴らしい。こういうことがどんどんできるようになってきているというのは、学校として進化していると思うし、そういうことを皆で自慢し合ったり、褒め称えあうということが重要。

・自分の授業だけが変わってもだめで、学校も中学校も生徒も社会も変わっていているので、世の中や生徒と対話をしながら、どうやって変わっていくとよいかということを考えてってもらえるといい。

・学校が一生懸命するだけでなく、生徒自らが考える。どうすれば課題解決に繋がるのかについて生徒が考え、生徒が目標を立てることが必要。目標や答えを自分で導き出せるような生徒を育ててほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 ある授業改善を推進する。「主体的・対話的で深い学び」の	(1) 小グループでの学習を中心に、生徒どうしが分からないことを聴き合える関係づくりを通して、確かな学力を育成する。 ア 授業公開の活性化、公開授業と研究協議を実施し、教員の授業力向上と生徒同士が協同して学び合う授業改善に取り組む。	ア・2、3年次のHR教室はコの字型の机配置を基本とし、授業では4人組を基本にした小グループで生徒同士が協同して学ぶ授業づくりに取り組む。1年次は授業規律の確立から取り組み、段階的にコの字型机配置を導入する。 ・わからないことは、グループの仲間に「訊く」習慣を身につけさせ、グループでの学び合う関係は、話し合う関係ではなく、訊き合う関係であることを理解させる。 ・「共有の学び」と「ジャンプの学び」がある協同的学びを推進する。 ・全教員が授業を公開し、相互に学び合い、生徒の学びの状況を見取ることが出来る力をつけ、一人残らず学びのある授業をめざす。 ・校外向け公開授業（全授業を公開）、研究協議会を2回以上開催し、生徒も教職員も学び合う学校をめざす。	ア・協同的学びについて、新着任教員への研修を1学期中に2回実施する。 ・生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている」68%（H28年度65%） ・授業公開と研究協議を10回以上実施するとともに、全教員が複数回授業見学を行う。 ・生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」80%をめざす。（H28実績77%） ・校外向け公開授業、研究協議会を2回以上開催。外部講師を招聘して、協同的な学びを推進する。（H28年度2回）	ア・1学期は生徒指導面での対応・会議に多くの時間を費やしたため、研修として実施できたのは1回となった。（△） ・考えて課題に取り組む授業デザインと生徒状況に応じた対応を通し授業展開している。「教え方に工夫をしている」65.8%で目標には届かなかった。（△） ・19回の授業公開を行い、教員相互に授業改善に向けた協議を行った。研究協議会としては5回を実施した。（○） ・生徒授業アンケート「授業内容に興味・関心を持てる」は77%で、昨年度実績と同じであった。（△） ・6月及び11月に公開授業、研究協議会を実施し、生徒の学びを見取るための多くの視点を共有し、授業デザインの改善に繋げている。（○）
2 全ての教育活動を通して規範意識と人権尊重の心を醸成し、安全・安心な学校づくりを推進する	(1) 基本的な生活習慣を確立し、遅刻や問題行動の防止に努める。 ア 基本的な生活習慣の確立と挨拶する態度を育む。 (2) 課題の背景をつかみ取り、生徒に寄り添ったきめ細かい支援を通して、不登校や中途退学を防止する。 ア 家庭連携、中高連携を深め、課題を共有し、「個別の教育支援計画」等を組織的に作成する。 イ 外部人材、外部機関との連携を深め、不登校や中途退学を防止する。	(1) ア・生徒の実態把握に努め、遅刻・欠席の原因や背景を探り、対話による丁寧な指導により、なぜ遅刻、欠席がいけないのかを理解させ、規範意識を高め、信頼関係を深める。 ・生徒自治会や教員による朝のあいさつ運動など、生徒同士や教員とコミュニケーションがとりやすい環境をつくる。 (2) ア・高校生活支援カードを活用するとともに、家庭連携、中高連携をさらに深めて、課題を教職員が共有し、修学支援委員会を中心に「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる。 ・生徒一人ひとりとじっくり向き合い、生徒の状況を把握し、問題解決に向けた迅速な対応に努める。 ・学年団で情報共有と意思統一を図り、協力して生徒支援に臨めるよう、学年会を月に2回以上開催する。 イ・不登校の兆候があり、中途退学が懸念される生徒について、家庭や中学校との連携を通して指導・支援に当たるとともに、必要に応じて外部人材、外部機関との連携を深め、中退防止に努める。	(1) ア・欠席者数、遅刻者数の昨年度比10%減をめざす。（遅刻者H28実績述べ11,180名） ・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度63%をめざす（H28実績58%） ・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度70%をめざす（H28実績65%） (2) ア・中学校訪問を延べ150回以上実施し、密接に連携する。 ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度68%（H28実績64%） ・教職員向け学校教育自己診断の教育相談体制の整備70%（H28実績66%） イ・外部人材と連携したケース会議を5回以上開催する。 ・中退率を前年度以下とする。	(1) ア・担任による毎日の家庭連絡や生活指導部及び学年による登校指導等に取り組んだ結果、遅刻者数は減少し目標を達成したが、欠席者数は増加している。（△） ・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度は55%であった。（△） ・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度は2年生が昨年度から満足度を下げ、1年生は昨年度入学生より満足度が低くなり、全体で56.6%であった。様々な場面において毅然とした対応とともに対話と寄り添う姿勢を深めたい。（△） (2) ア・年度当初（生徒支援のための情報共有）、夏休み（1学期の学校生活様子を中学校にフィードバック）、12月～2月（生徒募集）と延べ300回以上の中学校訪問を行った。（○） ・SSW、SCや学外支援者と連携し、生徒・保護者の教育相談を充実させた。生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度66%（△） ・学校教育自己診断（教職員）の教育相談体制の整備86%（◎） イ・今年度よりスクールソーシャルワーカーの配置を行い、生徒支援のためのケース会議を行うとともに、スクールカウンセラーの支援も活用しつつ様々な事例に対応している。ケース会議開催12回以上（◎） ・進級・卒業ができるよう、教育相談や生活指導・支援、学習支援などをきめ細かく行ったが、中退率は昨年度を上回った。（△）

<p>3 生徒自らが進路目標を掲げ努力し、自己実現ができる 支援・指導体制を充実させる。</p>	<p>(1) 学校生活を通し、自己発見を促し、勤労観・職業観・自己肯定観を養う。 ア 進路指導部を中心に、入学時より3年間を見通した系統的なキャリア教育を実施する。 2) 多様な進路希望に応じた学習ができる環境の充実。 ア 基礎・基本の学力定着を図る「朝学」、大学等進学に備える「ゆめ学」、受験・就職に繋がる資格取得に向けた講習や取組を実施する。</p>	<p>(1) ア・進路指導部と各学年の協力のもとに、自己肯定観を養う取り組み、職業観、勤労観を養う学習プログラム、体験学習等を充実させ、3年間で系統立てたキャリア教育を実践する。 ・企業経営者や大学等の講師による講演や懇談を通し、現実的な職業観や進路実現のための方法を学ぶ機会を多く設ける。 ・進学希望者に向けては、進学資金計画、奨学金制度について保護者を含めて丁寧に説明する機会をつくる。 (2) ア・基礎・基本の学力定着を図る「朝学」、大学等進学に備える「ゆめ学」、受験・就職に繋がる資格取得に向けた講習や取り組みを実施する。 ・支援を要する生徒については、専門機関との連携を図りながら生徒の適性・能力を把握し、職場実習を実施し、進路実現を支援する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度 75%以上をめざす (H28 実績 72%) ・卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以外の進路未決定率 7%以下をめざす。(平成 28 年度 8%) ・職業観育成プログラム参加希望 30 名以上 (H28 実績 21 名) ・就職希望者のうち学校斡旋就職希望者 74%以上 (H28 実績 70%) (2) ア・週 2 回以上「朝学」を実施。 ・放課後の「ゆめ学」受講率を前年度以上にする。(H28 実績 4%) ・資格検定試験受験率、合格率前年度以上をめざす (H28 実績：受験率 28%、合格率 28%)</p>	<p>(1) ア・キャリア形成のため系統的に取り組んでいるが、生徒向け学校教育自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度 67%と減少。組織的教育・研修体制の改善を図る。(△) ・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定者は 5%である。(○) ・丁寧に事前指導を行い、インターンシップ等、職業観育成プログラムに 36 名参加。(○) ・正規雇用就職に向けた進路指導を行っているが、就職希望者のうち学校斡旋就職希望者は 68%である。(△) (2) ア・2,3 年生は週 2 回以上の朝学を実施、1 年生は生活指導に重点を置き朝学は実施せず。(△) ・進学希望者対象に、長期休業期間や放課後等に「ゆめ学」を実施。受講率は 9%。(○) ・資格検定試験受験率 30%、合格率 31%で、受験率、合格率ともに上昇した。(○)</p>
--	---	---	---	--